



バレイショの疫病、アブラムシ類などの発生に 注意し、防除を励行しましょう

バレイショ栽培では、植え付け後の生育がほぼ順調に進んでいます。これからは花の蕾を作る（着蕾）～開花期に入っていきますが、この時期から収穫期までは、天候が不安定になると疫病が発生しやすくなるので十分な注意が必要です。

気象1ヵ月予報（4月14日発表）によると「天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は平年並または少ない確率ともに40%です」と予想され、疫病の発生にはやや適した条件と考えられます。バレイショ疫病は発病後の病勢進展が急速なため、今後は気象情報に十分注意し、降雨が予想される場合には予防散布や圃場をよく観察して発生初期の防除を必ず実施してください。

また、バレイショに寄生するアブラムシ類は、直接的な吸汁被害を生じる他に、ウイルスを媒介してモザイク病を発生させます。天候が安定して気温が高くなると、アブラムシ類の発生に適した条件となるので、発生初期からの防除が必要になります。なお、モザイク病に感染した株は他の株への伝染源となるので、早急に抜き取り、適切に処分してください。

<防除のポイント>

1. 疫病

- 1) 着蕾期以降になると発病しやすくなるので、薬剤防除に努めてください。天候が不安定で、降雨が続く場合は、定期的に散布します。疫病は多発生してからでは防除が困難なため、予防または発生初期の防除が重要です。
- 2) 窒素肥料の効きすぎや軟弱徒長の株は発病しやすいので、特に注意が必要です。
- 3) 薬剤散布は、十分量（100～300ℓ/10a）の薬液で、葉裏や株元にもよくかかるように行うことが特に重要です。
- 4) 収穫期に降雨があると、イモに病原菌が流れて感染し、表面にやや陥没した褐色病斑が形成されて商品価値を失う場合があります。収穫後の被害を抑制するため、収穫は晴天の日を選び、乾いた後に貯蔵します。

2. アブラムシ類、モザイク病

- 1) 圃場周辺の雑草は、アブラムシ類の飛来源やウイルスの保毒源となりますので、常に除草に心がけ、圃場衛生に努めてください。
- 2) モザイク病の発病株は、早急に抜き取り、近くに放置せず、圃場外に持ち出して適切に処分してください。

表1 バレイショ 疫病の主な防除薬剤 (令和4年4月20日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
ゾーベック エンカンティアSE	2,000倍	収穫14日前まで / 2回以内	49と11
フォリオゴールド ※※	500～1,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4とM5
プロポーズ顆粒水和剤 ※※	750～1,000倍	収穫7日前まで / 5回以内	40とM5
ザンプロDMフロアブル	1,000～1,500倍	収穫前日まで / 3回以内	40と45
ブリザード水和剤 ※※	800～1,500倍	収穫7日前まで / 4回以内	27とM5
カーゼートPZ水和剤 ※	600～800倍	収穫7日前まで / 4回以内	27とM3
レーバスフロアブル	1,500～2,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	40
ランマンフロアブル	1,000～2,000倍	収穫7日前まで / 4回以内	21
ペンコゼブ（ジマンダイセン）水和剤 ※	400～600倍	収穫7日前まで / 10回以内	M3
コサイド3000	1,000倍	- / -	M1

注1) 表中の※印がある薬剤には有効成分にマンゼブを、※※にはTPNを含みます。有効成分の総使用回数に注意してください。

注2) 表1または2の分類欄には、FRACまたはIRACコードを記載しました（コードが2つは混合剤）。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

表2 バレイショ アブラムシ類の主な防除薬剤 (令和4年4月20日現在)

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数	分類
コルト顆粒水和剤	4,000～8,000倍	収穫前日まで / 3回以内	9B
スミチオン乳剤	1,000倍	収穫3日前まで / 6回以内	1B
ダントツ水溶剤	2,000～4,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4A
ウララDF	2,000～4,000倍	収穫7日前まで / 2回以内	29
アディオオン乳剤	2,000～3,000倍	収穫14日前まで / 4回以内	3A
トランスフォームフロアブル	2,000倍	収穫7日前まで / 3回以内	4C

- 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。
- 営農 NEWS は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。